

# 庭木に利用する樹種の特徴と管理

## ～ イヌツゲ ～

日本樹木医会富山県支部  
樹木医 西村正史

ボールのように丸く刈り込んだ樹木を玄関前や庭等でよく見かけます（写真1）。この樹木はイヌツゲといい、剪定に強いのでこのような形にすることができるのです。そのため、花木というよりも樹冠を色々な形にして楽しむことができる代表的な樹木の1つです。

### 1 特性

モチノキ科モチノキ属の常緑樹で、雌と雄が別々の樹木になっています。

雄花と雌花は5～6月頃に小さな花を咲かせますが（写真2）、目立ちません。この属の実の色は通常赤ですが、イヌツゲの場合は黒で、実も目立ちません。ところが、丈夫で長持ちし、日陰でも育ち、好きな形に剪定できるという利点があります。

よく似た樹木にツゲ科ツゲ属のツゲがあります。両者は葉の付き方が違います。ツゲは対生、イヌツゲは互生です。

### 2 管理

日陰でも育ちますが、できるだけ日当たりの良い場所に植えます。その場所の土壤が悪い場合は、腐葉土等を投入し、水はけをよくするとともに肥沃な土壤にします。冬には、寒肥として緩効性肥料を投入します。根が浅いので、乾燥した日が続く場合は散水します。

一定の形を維持するためには剪定が必須で、秋を除けばいつでもよく、こまめに実施します。

注意すべき病虫害としては、ハマキムシ類の幼虫による食害とイヌツゲ枝枯病による枝枯れです。

前者は年数回発生し、枝先を糸で束ねてすみかとし、若い葉を食べます。放置すると枝全体に被害が広がり、茶色い葉で覆われます。スピネトラム水和剤（商品名：ディアナSCの2,500～5,000倍液を発生初期に散布）で対応します。

後者は枝枯れが発生するので、樹冠の形が壊れていきます（写真3）。発病初期にチオファネートメチル水和剤（商品名：トップジンM水和剤の1,000倍液を散布）あるいはベノミル剤（商品名：ベンレート水和剤の2,000倍液を散布）で対応し

ます。

生垣では、萌芽力が強いことを応用して、枝葉をほぼ全て切除する方法があります。その際、他への感染を防ぐため、作業の都度ハサミの消毒と切除した枝葉の処理を必ず実施します。



写真1 富山市内の民家玄関前のイヌツゲ（2019.7.16撮影）



写真2 イヌツゲの小枝（左）と雄花の拡大写真（右）  
物差しの最小単位：1mm  
名畑樹木医が持参されたものを撮影（2019.5.29）



写真3 イヌツゲ枝枯病の被害を受け、枝枯れが著しいイヌツゲ（高岡市内の民家にて2018.9.1撮影）  
左：全景 右：被害を受けた枝